

(2) ハイスクール旅行記

フランス・スペイン

米川 恵子



米川 恵子 / よねかわ・けいこ
1979年京都生まれ。1993年よりスイス、Zürich (チューリヒ) 郊外のZumi kon (ツミコン)市に在住し、現在Zürich州立Stadelhofen (シュタデルホフエン)高校ラテン語科に在学中。

今回は、最近学校から行った2つの旅行についてお便りしたいと思います。

私たちの学校では、1年に4回project weekが実施されます。Project weekというのは、学校から定められた2つの教科だけを集中的に、より深く学習する1週間のことで、この期間中には他の教科の授業は行われません。またその間教科で扱うテーマもひとつに絞られています。たとえば、昨年4月に行われたproject weekの時は、歴史と数学を集中的に学習しました。歴史は、いつもはヨーロッパの歴史を主に学習しているのですが、その1週間は中国の歴史、特に毛沢東がどのようにして権力を握り影響を及ぼしていったかに重点が置かれました。一方数学は統計と確率がテーマでした。Project weekの間の授業は日常と変わらず教室で受けるのがふつうなのですが、昨年6月に私たちのクラスは南フランスのニースの近くの小さな村で学習する機会に恵まれました。強化学習科目はフランス語と生物で、この2つを結びつけたすばらしい学習プログラムのおかげで、教科書や練習問題を超えた生きた学習を体験することができました。つまり、現地のフランス人と交流してフランス語を実際に使って学ぶかたわら、内陸地に住むスイス人のあまり知らない海の生き物、特にプランクトンについて大変身近に学習することができたのです。

ご存知のようにスイスには高いアルプスやたくさん湖はあっても、人々が海に接する機会があるとすればバカンスの時くらいで、私の友達でも海のことをあまり知らない人がほとんどなのです。

バスでチューリヒを出発し、約9時間後に到着



Villefranche sur-merでの生物の授業

したのは、ニースの東にある、Villefranche sur-merという村です。この村には、ノーベル物理学賞で有名なキュリー夫妻の名前のついた、Pierre & Marie Curie大学付属の海洋研究所があり、ここでは海洋生物に限らず、地震や気候などについてのさまざまな研究が行われています。6日間、私たちはこの研究所の設備と付属の宿泊所を使わせてもらいました。これらの施設は、本来なら他国から来る研究者や大学生のために設けられているものなので、私たちギムナジウムの学生が滞在できたのは大変幸運なことでした。

さて、Villefranche sur-merでの日課は次のようなものです。朝は8時に起床し研究所付属の食堂で朝食をとり、その後生物の授業が始まります。午前中3時間は研究所が用意してくれたプランクトンを顕微鏡で観察してスケッチしたり、海の生物の食物連鎖について学習します。昼食を終えると今度は水着に着替えてシュノーケルをつけ海底を観察し、海藻や魚のスケッチをしたり、海底の断面図を作成します。また、現地の人々の生活を知るために、数人のグループに分かれて研究所で働く人や近辺のホテルに勤める人にインタビューも行いました。私たちのグループがインタビューしたのは、研究所に勤める漁師さんです。漁師さんといっても、彼の場合は魚をとるのではなく、研究のためのプランクトンのみをとるプロなのです。漁船に備えられたレーダーでプランクトンの群れを見つけ、特殊な網で大量のプランクトンをとる方法を実演してくれました。ここでとれたプランクトンは研究所でさまざまな研究や分析に使われます。現地の人々との交流によって発見できた大きなことは、海の近くに住む人々の陽気な気質でした。



漁師さんとプランクトンをとる専用の網

海のない国スイスに住む私たちにとって、彼らの気質や、ライフスタイルは大変新鮮に思われました。

また、日帰りで訪ねたモナコの海洋博物館では、地中海のプランクトンの分布図を見せてもらい、地球上の人類にとって非常に身近で大切な海が、人類自身がもたらした公害によるプランクトンの過剰繁殖によって汚染され、食物連鎖のバランスが大きくくずされていることを知りました。普段の授業では、現在ヒトの体や遺伝子について学んでいるので、海洋生物というまったく異なった分野についていろいろ知るのとはとても興味深いことでした。

次は、つい先日クラスで行った卒業旅行について書きたいと思います。私たちの学年は、順調にいけば2000年の1月に卒業です。なぜ、順調にいけばかということ、その前にまず日本の大学入試にあたる厳しい卒業試験に合格しなければいけないからです。

さてどの国に旅行するかは生徒たちで決めることができます。条件は、スイスから電車もしくはバスで行ける範囲の国であることと、学校の指定した予算を超えないことです。そして、担任以外のもう一人の引率の先生も生徒たち自身で選べます。私たちのクラスは、担任であるフランス語の先生と、生徒に大変人気のある歴史の先生とともにスペインのバルセロナに6日間旅行することになりました。今回の旅行は、project weekとは異なり、目的は科目の学習というよりは、むしろバルセロナの町を見たり、スペインの文化を知ることです。事前にクラス22人が数人ずつのグループに分かれてそれぞれ半日分の観光案内を準備しました。何しろまだ行ったことのない町なので、皆ガイドブックと地図を頼りに、手探りで準備したわけです。しかし、建築様式などにも詳しい歴史の先生の充足説明のおかげで、私たちの頼りない案内も充実し、たくさん情報を得ることができました。見た目が落ち着いていて、どちらかといえば



サグラダファミリア教会(バルセロナ)

地味なチューリヒの町並みに比べ、バルセロナの町には、中世のゴシック式の寺院もあれば、ガウディが1882年に建て始めて今でも未完成の超個性的なサグラダファミリア教会や、ロマネスク様式、時にはファシズム時代の建物もあり、とても色彩豊かな雰囲気でした。また、スペイン人の生活のリズムを知るのも興味深いものでした。というのも、スペイン人は長めのシエスタ(昼の休息)をとるので店はたいてい午後1時から4時まで閉まってしまいます。夕食をとるのは夜遅く、8時にレストランに行くときまだ誰もいず、10時を回ってようやく混んでくるようでした。今回の旅行で残念だったことは、前述のフランスへの旅行に比べて現地の人々とのコンタクトがほとんどなかったことです。私たちの回ったところはどこも観光客がたくさん訪れる場所らしく、そこにはやはり多くの観光客とみやげ物屋しかなくて、現地の人々と身振り手振りで話したり交流する機会はありませんでした。バルセロナの町は大都会で人が多く、それに比べて交通も激しい上に縁が少ないので、12時間電車で揺られ再び静かで自然に包まれたスイスに帰ってきた時はほっとしたのが事実です。

フランスとスペインの旅行を通して実感したことは、言語や、現地の人々のライフスタイルを知りたければ、やはり現地で体験するのが一番よいということです。個人で行く旅行とはまた違って、学校からクラスメートと一緒に外国旅行はまた楽しいもので、その機会に2度も恵まれて、本当によかったと思います。次々といういろいろな面での発見があり、興味深い2つの旅行でした。



歴史の先生の説明：サグラダファミリア教会を設計する際にガウディはこうに天上から重しをつけたらみをつるし、教会全体を逆さにした状態で、塔の高さや細さに物理的な余裕があるか実験したという。

ネパール シェチェン診療所建設プロジェクト報告

篤志家の皆様へ

この度は「ネパール シェチェン診療所建設募金」の呼びかけにさっそくお応えいただき、ご厚志を賜りまして誠にありがとうございました。

皆様方からいただきました寄付金は、1999年12月15日現在 4,455,619円に達しております。本来ならば、お一人お一人に御礼状をお送りし感謝の念をお伝えすべきところ、銀行振込のため住所がわからない方がかなりおられます。たいへん失礼とは存じますが本誌での御礼に代えさせていただきます。もし、読者の皆様のご友人、知人の中にご寄付をくださった方がおられましたら、どうぞ私共の感謝の気持ちをお伝えください。

ご案内では1999年12月31日締め切りとさせていただきますでしたが、目標金額を目指し、引き続き募金活動を行って参る所存です。今後ともご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

シェチェン診療所建設基金代表 柴田 廉
株式会社東機貿代表取締役社長 佐多保彦

Dear Contributors,

Shechen Mahabuddha Vihara is most grateful to all the generous donors who have kindly contributed to the building of the Shechen Clinic, near Kathmandu in Nepal .

Construction has started with great enthusiasm and we hope to complete the building by the end of May, 2000

The clinic should be operational very soon after that. We have no doubt that, through your help, this clinic will soon become a focal point for improving the health conditions of the needy people who live in our area .

We are determined to make this project come to fruition and express once again our deepest gratitude to all

Matthieu Ricard



診療所建設プロジェクトチーム



整地中の診療所建設用地(1999年10月)